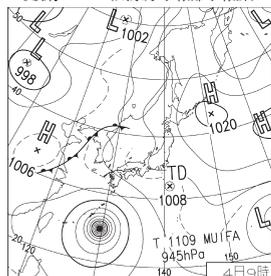


日々の天気図

— No. 115

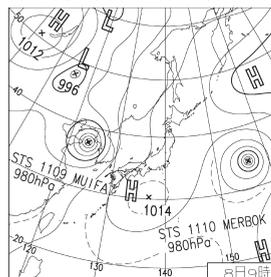
2011年 8月

- 5日、台風第9号が沖縄に最接近し、久米島付近を通過。
- 14日、高気圧に覆われて気温が上昇し、福井県小浜市では観測史上1位となる38.1°Cを記録。
- 23日、前線に湿った空気が流入、激しい雨となり各地で8月の1位を更新。(気象庁予報部予報課)



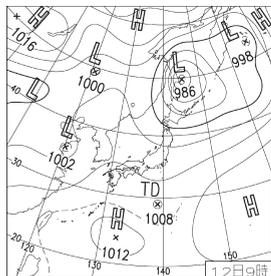
4日(木)山沿いで激しい雨

台風第9号や熱帯低気圧から流れ込んだ湿った空気に日射による気温上昇が加わり、九州や東海～関東の山間部で局地的な雨。暴風域に入った那覇で最大瞬間風速38.9 m/s。



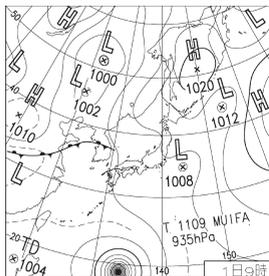
8日(月)猛暑の立秋

西～東日本は広く晴れて京都府舞鶴の37.9°Cをはじめ、20都府県62地点で猛暑日。午後は東日本・北日本で激しい雨となり、山梨県で記録的短時間大雨情報発表。



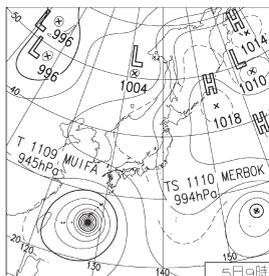
12日(金)福島県で震度5弱

東海・関東甲信中心に猛暑日となり厳しい暑さ。北海道の暑さは和らぎ、道内で真夏日となったのは東部沿岸の22地点のみ。午後は中国～近畿で20～40 mm/1hの局地的な強い雨。



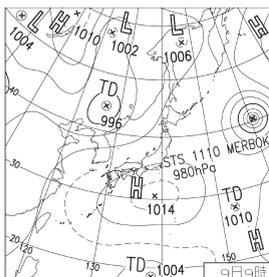
1日(月)静岡県で震度5弱

西日本は大気の状態が不安定で、各地で非常に激しい雨。和歌山県那智勝浦町色川で89.0 mm/1h。東北太平洋側と関東では最高気温は低く、福島では平年より10°C低い21.0°C。



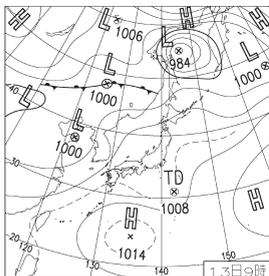
5日(金)台風第9号沖縄に最接近

強い台風第9号は、22時頃に久米島付近を通過。「台風之眼」に入った久米島では、風向が反時計回りに変化し風速が一時的に弱まり、雨も止んで最低気圧954.6 hPaを観測。



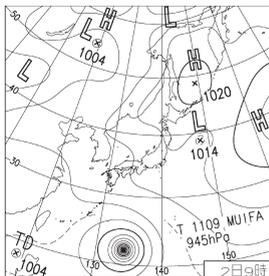
9日(火)8割の観測地点で真夏日

朝から晴れて気温が上昇し730地点で真夏日。猛暑日は29都府県95地点。京都府南丹市園部で38.1°C。午後は西日本～関東甲信で熱帯。山梨県山梨市牧丘町乙女湖で53 mm/1h。



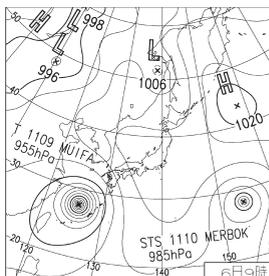
13日(土)広範囲で雷雨

全国的に高気圧に覆われ気温上昇、岐阜県多治見で38.1°C。湿った空気の流れ込みにより大気の状態が不安定で九州～東北で雷雨となり大分県宇佐市院内で49 mm/1h。



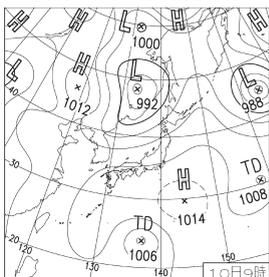
2日(火)東部沿岸 盛夏から遠く

湿った空気の流入が続き、大気の状態不安定。西～東日本の山沿いで局地的な強い雨。三重県大紀町藤坂峠で56.5 mm/1h。東海～東北太平洋側は最高気温が平年より5～7°C低い。



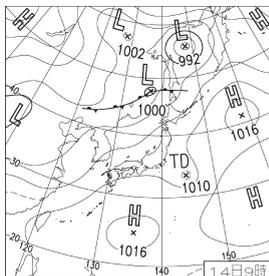
6日(土)各地で局地的大雨

台風第9号の影響で南西諸島～九州では雨。その他は高気圧に覆われ概ね晴れたが、午後は大気の状態が不安定で各地で局地的大雨。栃木県日光中禅寺湖畔で52 mm/1h。



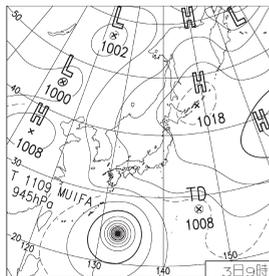
10日(水)この夏一番の暑さ

広く高気圧に覆われ真夏日47都道府県738地点、猛暑日41都府県151地点ともにこの夏最多。群馬県館林で38.7°C。午後は九州～東北部で雷雨。台風第10号は温帯低気圧に。



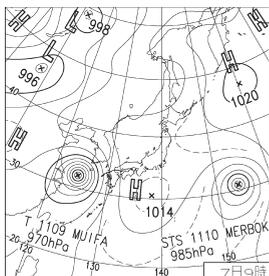
14日(日)九州と北海道で雨

西～東日本は高気圧に覆われて気温上昇。午後は大気の状態が不安定になり各地でわか雨。高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流入した九州と前線が停滞した北海道も雨。



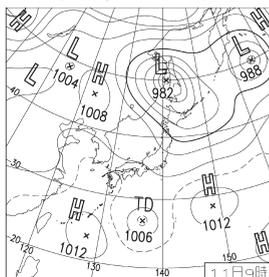
3日(水)大東島地方暴風域に

沖縄県大東島地方は台風第9号の暴風域に入り南大東村在所で最大瞬間風速37.3 m/s。西日本は晴れて各地で猛暑。東日本は湿った気流により局地的に激しい雨。台風第10号発生。



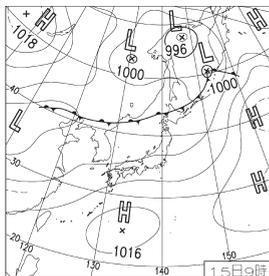
7日(日)関東中心に局地的大雨

西日本は安定した晴れが続くが、関東を中心とした東～北日本は午後から局地的に激しい雨や雷雨。群馬県では複数の地点で40～50 mm/1hの雨を観測し、土砂災害も発生。



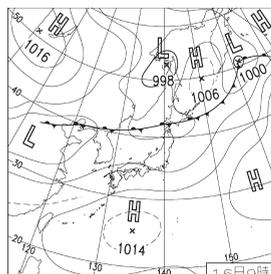
11日(木)茨城県で猛烈な雨

全国的に概ね晴れて暑さ続く。北海道でも113地点で真夏日。午後は大気の状態が不安定となり所々でわか雨。茨城県は局地的大雨で、石岡市柿岡114.5 mm/1h。



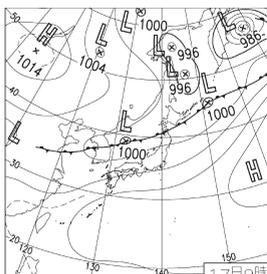
15日(月)全国のお所で雷雨

九州では南からの湿った気流により、北海道では前線により、雷を伴った強い雨。その他の地方では概ね晴れたが、午後は大気の状態が不安定になり、山沿いを中心に所々で雷雨。



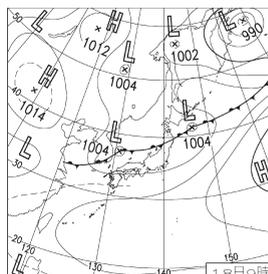
16日(火)今日も全国的に雷雨

前線や湿った空気の流れ込み、日射による昇温により大気の状態が不安定となり兵庫県養父市八鹿で63 mm/1h、鳥取県若桜で57.5 mm/1hなど九州～北海道で激しい雨。



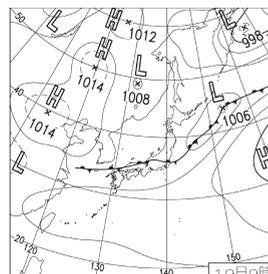
17日(水)前線南下し東北に停滞

前線はゆっくり南下し東北北部へ、西～東日本は太平洋側中心に晴れて厳しい暑さだが、日本海側は雨。秋田県藤里で67.0 mm/1h、北海道は北部で晴れ間が戻る。



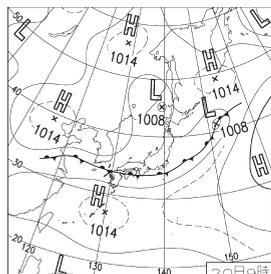
18日(木)山形県で大雨

前線の影響で山形県では酒田市浜中で280.5 mm/日などの大雨。前線の南側で広く雷雨となり、奈良県十津川村玉置山で72 mm/1h、関東中央に気温上昇し、群馬県館林で38.5°C。



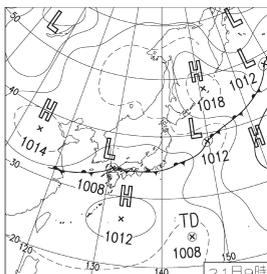
19日(金)猛暑、一段落

前線の南下に伴い西日本～東北は北からの空気が入り、関東を中心に日中、急速に気温下降。前線付近は局地的に強い雨や雷。さいたま市桜区で59.5 mm/1h、観測史上1位を更新。



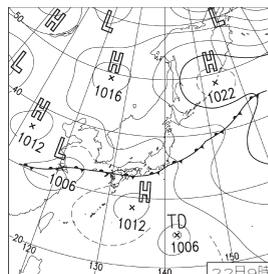
20日(土)北海道で大雨

北海道は寒気を持った上空の気圧は谷の通過で対流雲が発達し局地的な大雨。西日本～東北は前線の影響で曇りや雨で、気温上がらず最高気温は10月上旬・中旬の所も。



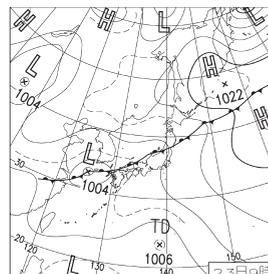
21日(日)九州北部で竜巻や突風

北海道では上空の寒気、九州北部では低気圧の影響で大雨。福岡県で竜巻。北海道白老町森野で77.5 mm/1h、日降水量380 mm、山口県下関市豊田で74.0 mm/1h、真夏日観測は63地点。



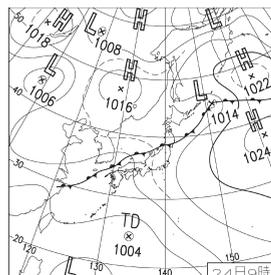
22日(月)関東～東北 涼しさ続く

九州～東北は雨の所が多く、九州では各地で40～50 mm/1hの激しい雨。北海道は晴れ間が戻る。西日本太平洋側で真夏日となるが、関東～東北の最高気温は9月中旬～10月上旬並。



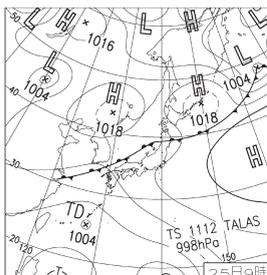
23日(火)九州～北陸で大雨

前線北上で湿った空気が流れ込み九州～北陸で激しい雨。長崎県平戸で114.5 mm/1h、365.5 mm/日など各地で8月の1位更新。長崎県、愛知県、岐阜県で記録的短時間大雨情報発表。



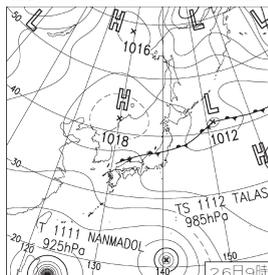
24日(水)6日ぶりの猛暑日

前線が停滞した九州や東北日本海側、暖かく湿った空気が流入した近畿～関東の太平洋側で雨。北陸～東北は気温が平年より低いが関東以西は真夏日となり、大阪府で猛暑日2地点。



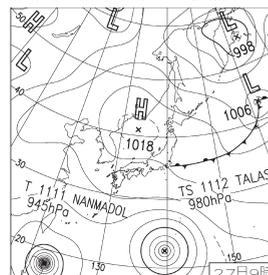
25日(木)台風第12号発生

台風第11号の東側にあった熱帯低気圧が発達、マリアナ諸島付近で台風第12号(タラス)発生。日本付近は前線が停滞し、各地で雷雨や大雨。群馬県高崎市上里見で72.0 mm/1h。



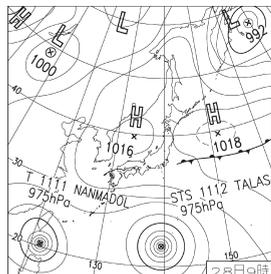
26日(金)関東などで猛烈な雨

北海道では上空の寒気で、関東甲信では前線の南下で、九州北部では湿った空気強い日射の影響で大雨。神奈川県相模原市中央で94.5 mm/1h、東京都練馬区練馬で90.5 mm/1h。



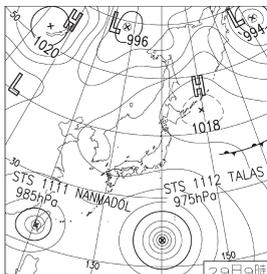
27日(土)近畿で非常に激しい雨

湿った空気により九州～甲信で短時間強雨。大阪府豊中の最高気温36.0°Cなど近畿では気温上昇し、大阪府中央区では観測史上1位タイとなる77.5 mm/1hの非常に激しい雨。



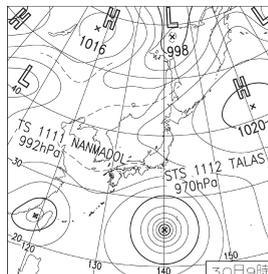
28日(日)高気圧で広く晴れ

前日からの雨は明け方まで、日中は高気圧に覆われ全国的に晴れて九州で猛暑日。午後九州～甲信で雷雨。山口市徳佐で62.5 mm/1h、台風第12号は小笠原南西海上をゆっくり北上。



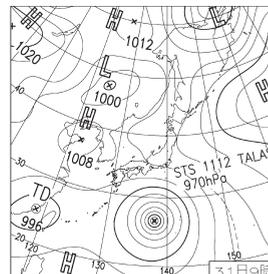
29日(月)西日本で厳しい残暑

先島諸島では台風第11号の影響で雨。その他は高気圧に覆われて概ね晴れたが、内陸の一部でわか雨。大型の台風第12号は小笠原近海でほとんど停滞。福島市でスキ開花。



30日(火)台風小笠原近海を北上

台風第12号は小笠原近海をゆっくり北上。小笠原諸島では大しけと大雨。先島諸島は台風第11号の影響で雨。東日本以西で真夏日の所が多く、西日本中心に8ヶ所では猛暑日。



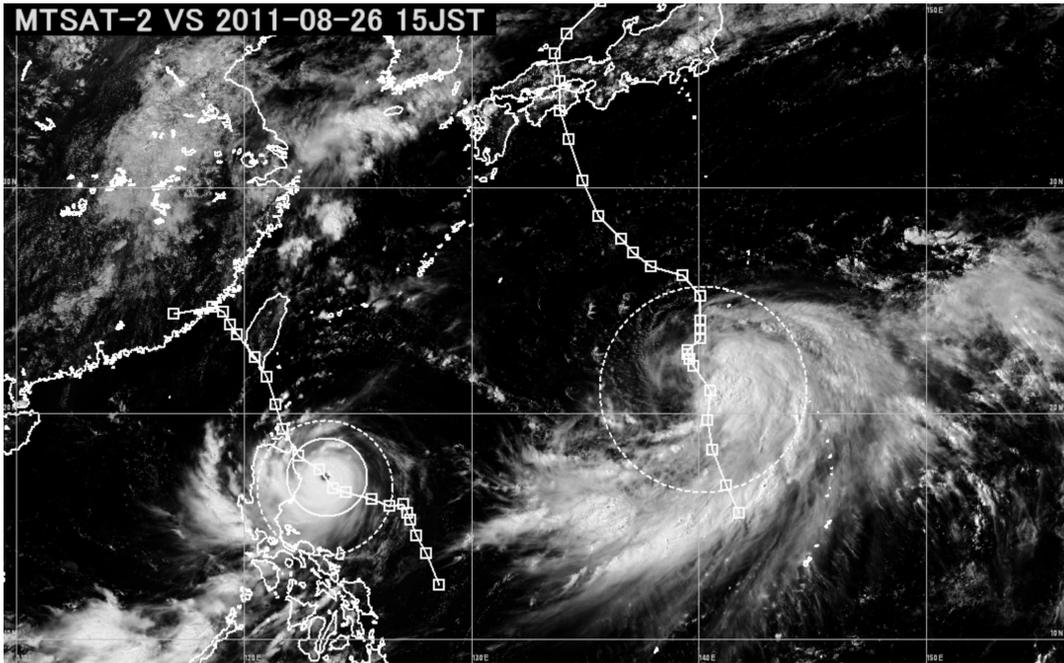
31日(水)台風第11号熱低へ

関東から紀伊半島沿岸には台風の北側の暖かく湿った空気が流れ込んでわか雨。北日本では上空の寒気により所々で雷雨。その他は晴れや曇り。秋田市大正寺で58.0 mm/1h。



今月のひまわり画像—2011年 8 月

8 月下旬に発生した 2 つの台風 第11号と第12号



第 1 図 2011年 8 月26日15時（日本時間）の可視画像。実線円、破線円はそれぞれ台風の暴風域、強風域。記号□は台風の12時間毎の位置。

第 1 図は2011年 8 月26日15時（日本時間）の可視画像に台風第11号の暴風域（平均風速25 m/s以上の領域：実線円）及び第11号及び第12号の強風域（平均風速15 m/s以上の領域：破線円）と12時間毎の経路（速報解析値を含む12時間毎の位置：記号□）を重ね合わせたものである。フィリピンの東海上には中心に眼が形成された第11号があり、中心気圧925 hPa、最大風速100 kt（1 kt=0.51 m/s）の非常に強い台風に発達していた。また、マリアナ諸島の北西海上には発達中の第12号があり、中心気圧985 hPa、最大風速45 ktとなっていた。2つの台風の中心気圧及び最大風速を見ただけでは、第11号の方がより大きな被害をもたらすと考えられるが、結果としては第12号の方が災害の規模が大きくなった。

第 1 図に示した時刻では、台風第11号は暴風域の直径が370 kmであり、中心気圧との対応関係でみると「細身」の部類に属していて、強風域（直径670 km）もそれほど広くはなかった。一方、第12号は暴風域こそ存在しないものの、強風域は直径1,000 kmと広く「大型」の台風となっており、日本通過時（9月3日）

には直径が1,200 kmにまで拡大したが、中心気圧は最盛期でも970 hPaにとどまっていた。

この後、台風第11号はルソン島を通過し、バシー海峡から台湾南部を通って中国福建省付近で熱帯低気圧に衰弱したが、フィリピンでは死者・行方不明者40人以上の被害となり、台湾南部でも総降水量1,000 mm以上の降水により大きな農業被害もたらされた。一方、第12号は日本の南海上をゆっくりと北上し続け、9月3日に高知県東部に上陸した。「大型」でさらに動きが「遅かった」ため、台風周辺の非常に湿った空気が長時間流れ込んだ紀伊半島では総降水量が1,800 mm以上となり、全国で死者・行方不明者が90人を超す被害等により激甚災害に指定された。

この2つの台風第11号、第12号は熱帯低気圧としての発生時期は共に8月下旬で、発生した緯度もそれぞれ北緯12度、15度付近でほぼ同じであったが、強風域、移動速度、経路などの特徴が大きく異なっていた。

（気象庁予報部予報課 西村修司）